

州 碓 川



スタート
ゴールピーコン
立入り禁止区域

群馬県碓川市赤城町
兼
県ARDF競技大会
高等学校ARDF競技
東予選3.5MHz部門
群馬県支部・群馬ARDFクラブ
学校文化連盟
図製作・群馬ARDFクラブ
(篠原)
(清水)

2011群馬大会(3.5MHz)での 私の判断と行動

2011年5月15日(日)
於 群馬県赤城町
安島 巧

0 500m

縮尺 1:15,000 等
K.Shino OCAD9.7.1 License No.5883



初めに

このドキュメントは、ARDF競技に参加したときに、私がどういう場面でどういう判断をしたかを記憶を頼りに記録したものです。

従って、「こうすべき」という正解を記載したものではありません。

ARDFに参加した一競技者の話として、主に初心者の皆さんの役に立てられればと思って作成いたしました。

あなたならどう攻めますか？

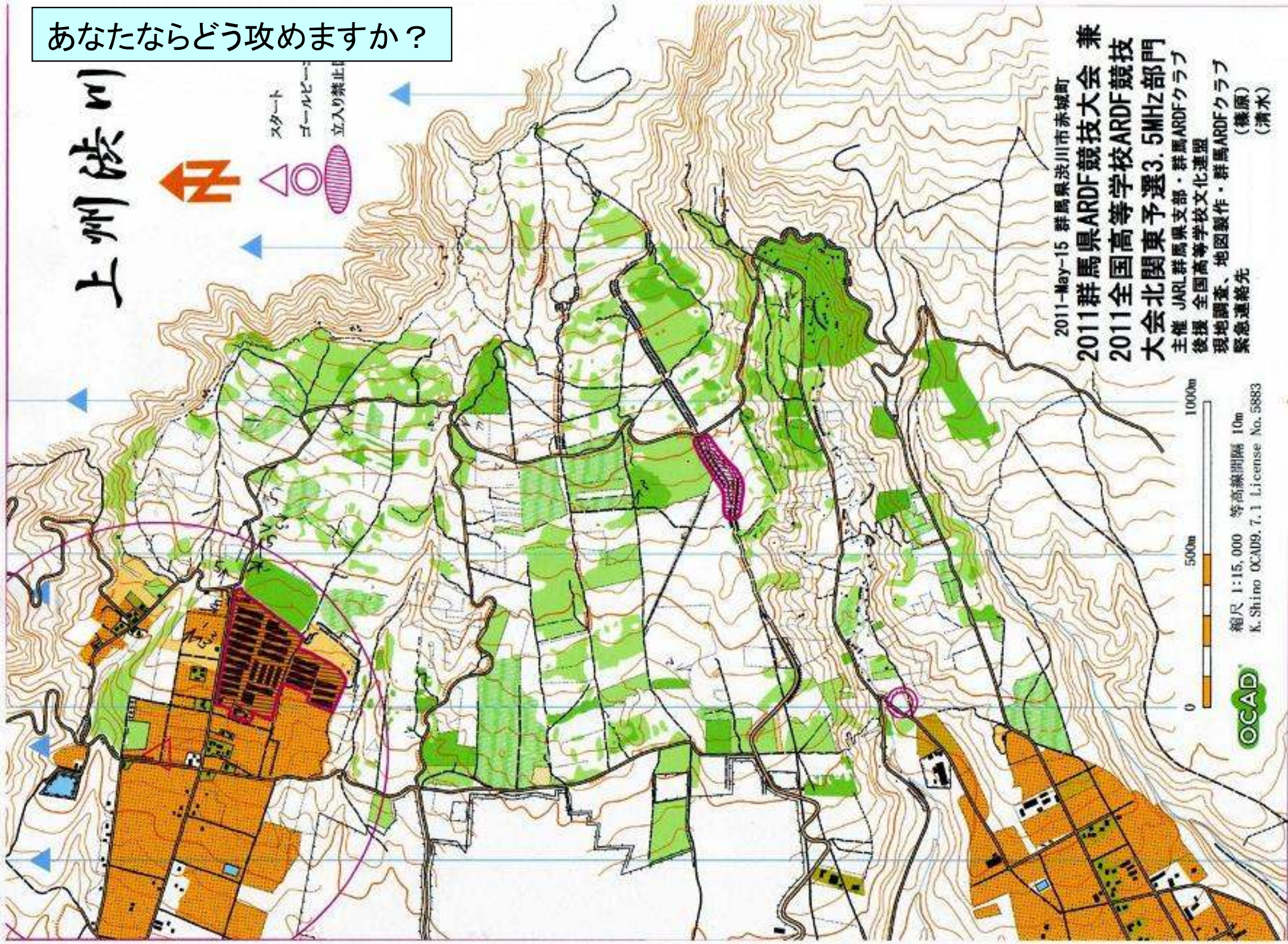
上州碓川



スタート

ゴールポイント

立入り禁止



2011-May-15 群馬県碓川市赤城町
2011群馬県ARDF競技大会 兼
2011全国高等学校ARDF競技
大会北関東予選3.5MHz部門

主催 JARL群馬県支部・群馬ARDFクラブ
後援 全国高等学校文化連盟
現地調査、地図製作・群馬ARDFクラブ
緊急連絡先 (榛原)
(清水)

縮尺 1:15,000 等高線間隔 10m
K.Shino OCAD9, 7.1 License No.5883



①スタート前の地図読み

3. 5MHzでこれだけ広いテレインに設定できるとは、流石に3. 5MHz大会を継続して実施している群馬だ。東から西に向け下る斜面である。基本行動パターンは東方向に山を登り、TXをゲットしながら下ってゴールするというパターンだ。道はほぼメッシュ状になっており、移動はし易い。ただゴールより南側にTXがあるとそのゲットはきつい。右回りルートで回ることにする。



②探索開始地点

かなり遠方にあるのか全体的に信号が弱い。かろうじて聞こえる程度だ。近年の大会では珍しい。「制限時間はたっぷり140分です」という大会主催者の微笑みが目に浮かぶ。

第一ターゲットは真東にあるTX5。自分には不要のTX2が最も弱い。ちょっとラッキーか。





③ 強烈な山登り

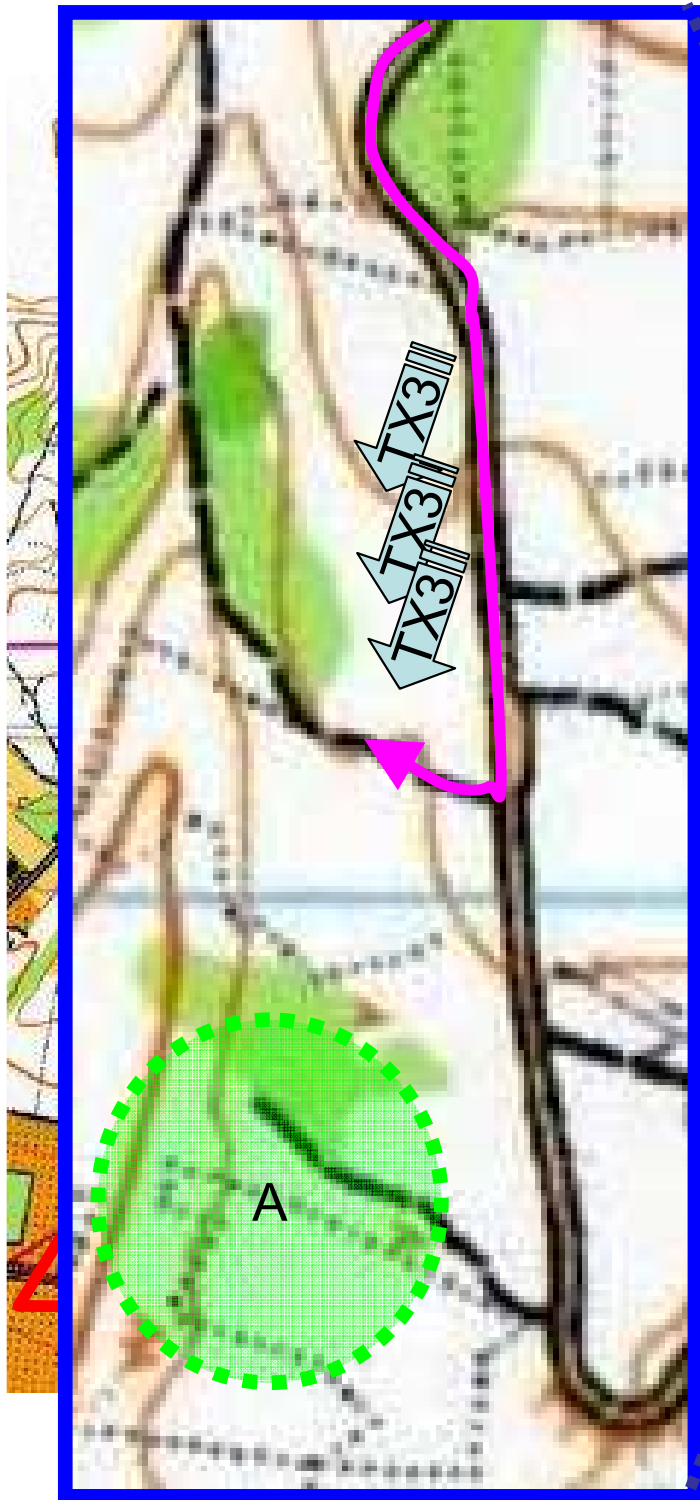
車道をひたすら登る。スタート30分で今日の体力の8割を使ってしまいそうだ。山菜取りで、そこら中に群馬ナンバーの車が止まっている。今日は駐車車両が第二フラッグにならないことを認識。TX1は標高が高いエリアだ。



④TX5

信号強度からすればもっと山の上のほうではあるが、念のため分岐あたりで待機。TX5が鳴く。西の小道方向。ATTが最大感度状態(遠距離モード)であったのを忘れて近距離と勘違いし、走りこむ。フラッグ手前3mでようやく受信機飽和。TX5ゲット。



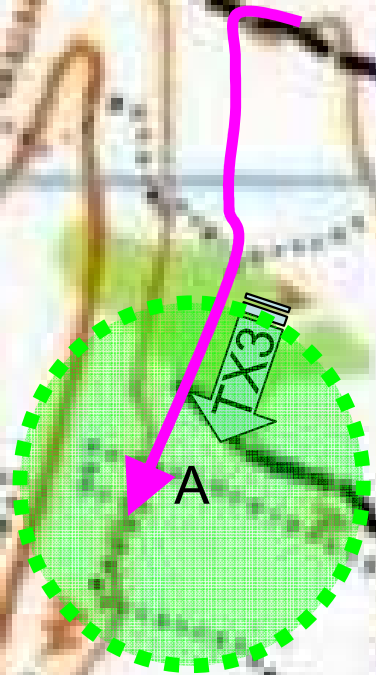


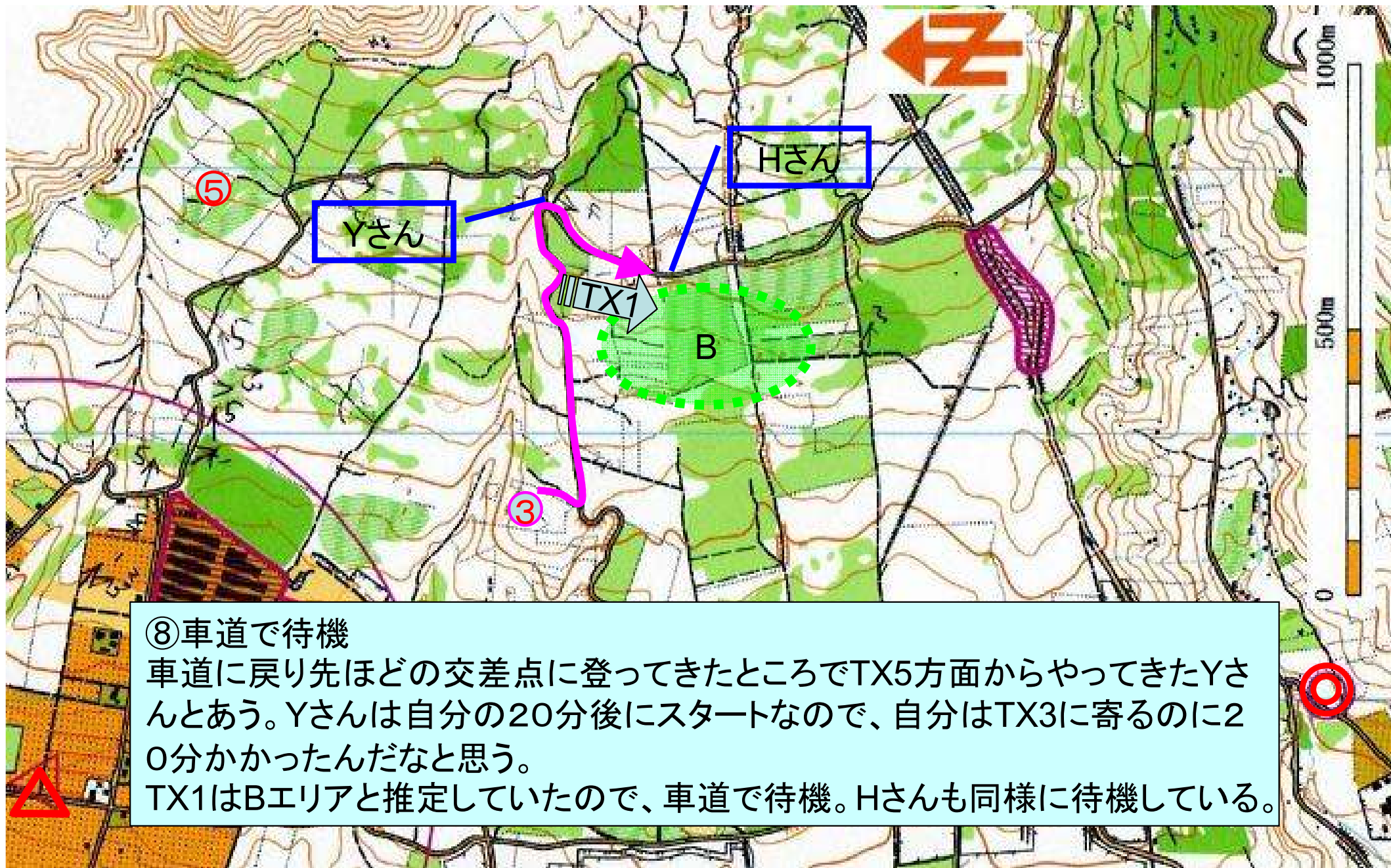
⑥TX3が鳴く
下り直線に入ったところで、TX3が鳴く。右斜め方向だ。少し強くなったので坂を駆け下りながら方探。残念ながら方位変化は余りなく、Aエリア付近と推定。小路があったので念のため入ってみる。

⑦TX3

Aエリア方向を目視しながら進むが、地図どおり小路は東方向に折れており、それ以上は進んでも無駄と判定。車道に戻るのにはしゃくなので、ここで待機しようかと考えたが、Aエリア方向に入っていきそうなので進んでみる。TX3が鳴く。近い。そのまま進みTX3ゲット。

③





⑧車道で待機

車道に戻り先ほどの交差点に登ってきたところでTX5方面からやってきたYさんとあう。Yさんは自分の20分後にスタートなので、自分はTX3に寄るのに20分かったんだなと思う。

TX1はBエリアと推定していたので、車道で待機。Hさんも同様に待機している。



⑨TX1

TX1が鳴く。南西方向。林に走りこむが途中で停波。辺りを見回すと競技者が何人かいろいろな方向に進んでいる。つまりいろいろな方向からアプローチしてきたということで、TXは近いことは事実だ。自分の前方をよく見ると、赤い影が見える。進んでTX1ゲット。



⑩南へ進んだ交差点

残りはTX4と自分に不要なTX2だが、時間的には余裕があるので東方向(本当は西)にあるTX2もゲットすることにする。南に進む途中で耳を劈くような強烈な信号が。TX1だ。TX1との距離は200~300m。通常の大大会と同様の信号レベルだ。TX1のカウンターポイズがどのように張られていたのか確認はしなかったが、かなり指向性が出ていると判断。前方の交差点にはいつのまにかHさんが居て方探している。自分はそこでは止まらずに東方向へと進む。



① やられた

坂を登りながら、TX2をゲットしたいという頭とは裏腹に、体の方は後悔している。TX2の信号はまだまだ弱い。車道を横切り、さらに東へと坂を登っていく。TX2が鳴くが、TX1より弱くなってしまった。「やられた！ 逆方向か！ 東方向だとんでもなく上のほうだ。これはありえない。」逆方向と確信。Uターンする。

⑫林に入る
坂を下り始め、車道に出たところでS先生が方探中。山から降りてきた私を見てびっくりしている。無理もない。TX4が強くなってくる。左斜め45度方向だ。そっち方向へ行く道はない。意を決して林に入り、コンパスモード(方探で定めた方向に、コンパスを使って直進する)で進む。途中の方探で進行方向を修正し、さらに進む。



⑬TX4

藪の中に人影が見え、こっちを見ている。TX審判員か？すると反対方向にフラッグが見えた。SIパンチすると人影は後ろを向いて立ち去っていった。審判員ではなく、山菜取りのギャラリーだったのだ。TX4ゲット



⑭TX2

TX2は北方向。藪から脱出する道も北方向なので、コンパスモードで北へ進む。道を横断してさらに進む。TX2が鳴く。至近距離。右後ろだ。ちょっと進むとフラッグが見えた。南方向からKさんが近づいてくる。お先にTX2ゲット。



⑮ゴールへ向かう

道に戻り、ゴールへと向かう。ビーコンとの距離は500mを切ってはいるが、まったく聞こえない。暑くなってきたので周波数ずれが起きたのだろうか。ビーコンを見下ろせる位置に来た。ようやくビーコンの信号を確認できた。相当弱い。



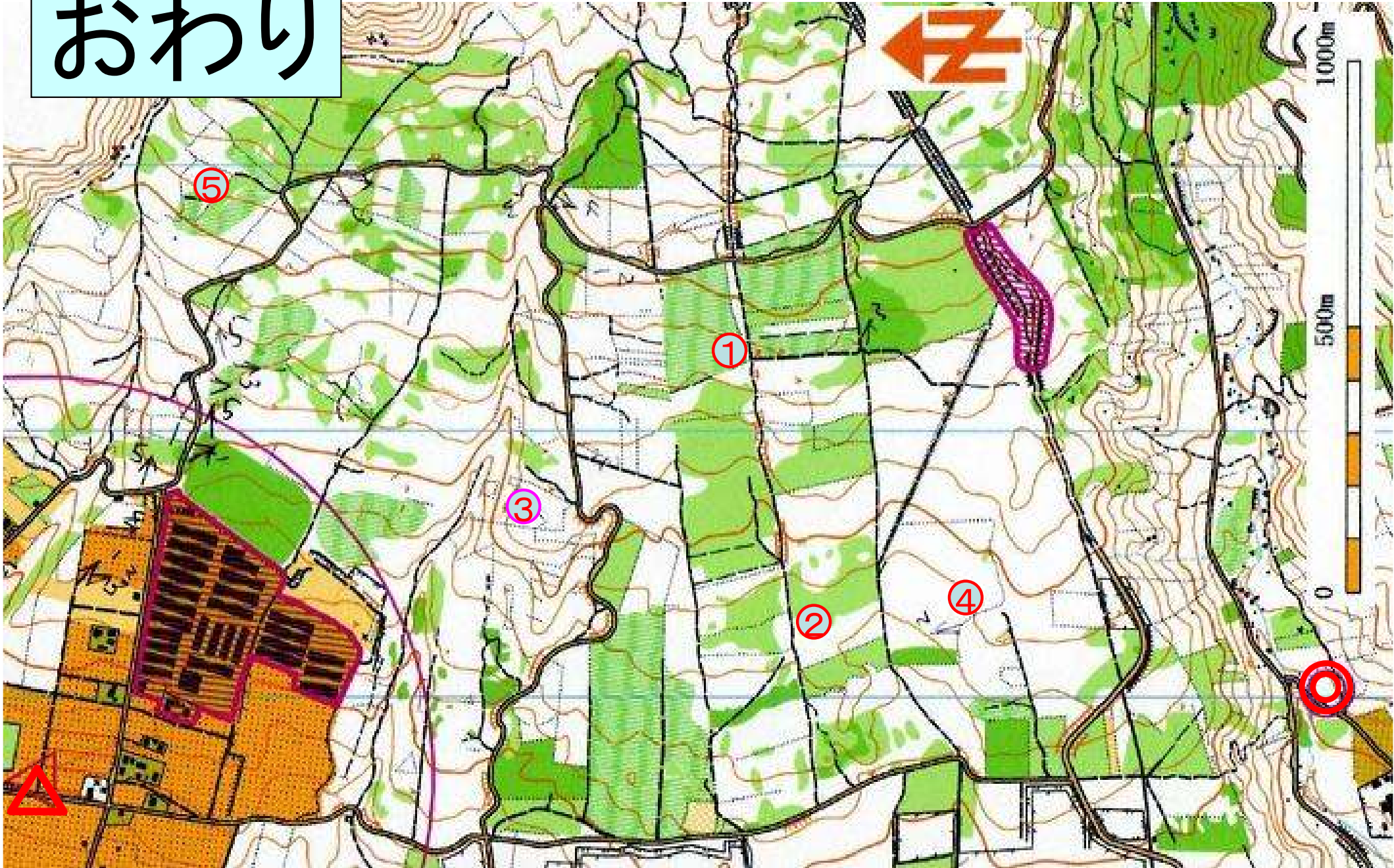
⑩ゴール

スタート地点で、地図上のビーコン位置が10mくらいずれていますとの説明があった。しかし2重丸記号の内側の円直径が70mくらいあるので誤差範囲だ。

山に登れる場所を探しながら進んでいくと交差点付近に審判員のIさんが立っていて、ゴールラインの黄色のテープも見える。そっちな。ビーコンもそっちだ。Iさんが「ビーコンチェックはありません。」と言っている。いつも思うが、審判員のとくと普段との口調のギャップがさんは特に大きいので面白い。ゴール。



おわり



反省

◇なんとと言ってもTX2の方向を勘違いして山に登ってしまったのが敗因。場所的に言えばTX1付近でしっかりとTX2を方探していれば間違えなかったはず。しかしそのときの状況を思い返せば、TX1探索に必死でその心の余裕はない。単に移動中であれば頭には余裕がある。道を進んでいるときは方向感覚があるので、手首スナップを利かすだけでTXの大体の方向がわかる。林の中ではコンパスを見るというアクションが増えるので面倒になる。しかしそんなに時間をとる話ではない。つまりやってできない話ではない。んー。結局精神力の問題か。